

## 22年度入学式

平成 22 年度東京都立産業技術高等専門学校入学式が、4 月 13 日ティアラ江東にて挙行されました。



## 編集後記

今回は卒業式、入学式その他、航空高専の閉校式と盛りだくさんになりました。校長先生のお話の様に航空高専の**勉学の精神**と**伝統**を引き継ぎ産技高専の基盤にできる様、引き継いでいけたらよいと思います。

閉校式の時、ある和服の品のある女性が写真を座席に置き式典を待っていました。お話を聞くと、写真の方は4年ほど前に亡くなられたご主人だそうです。航空高専が最後という事でご主人と一緒に式典にいらしたそうです。生前、高専を愛し誇りに思っていた気持ちがそのまま奥様やお子様方、ご家族の誇りになっていたそうです。

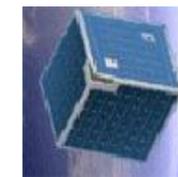
産技高専もこの方の様に永く愛される学校になると良いと思います。広報委員もバックアップしたいと思いますのでみんなで盛り上げていきましょう！

広報委員： ・委員長 A-4 山井早苗 ・1-7 金子幸枝 ・A-2 浅倉みゆき ・A-2 岩井久美子 ・W-3 小泉敏子  
 ・副委員長 1-8 鈴木照代 ・T-3 菅原京子 ・R-4 田島昌明 ・M-5 金子良子 ・A-5 小幡達信



# - kiseki - 輝 汐 2号

東京都立産業技術高等専門学校  
 << 荒川キャンパス >>



後援会広報誌  
 2010年5月  
 後援会広報委員会



- 航空高専卒業式
- 謝恩会
- 航空高専閉校式
- 航空高専の歴史
- 産技高専入学式
- 編集後記

〒116-0003

東京都荒川区南千住 8-17-1

東京都立産業技術高等専門学校

荒川キャンパス (荒川区南千住)

<http://www.metro-cit.ac.jp/> ☎ 03-3801-0145

後援会 e mail [kouenkai@acp.metro-cit.ac.jp](mailto:kouenkai@acp.metro-cit.ac.jp)

# 航空高専卒業式

21年度東京都立航空工業高等専門学校最後の卒業式が3月18日夕黎ホールにおいて挙行されました。



成績優秀者「表彰」



卒業式の前

H21	航空工学科	機械工学科1組	機械工学科2組	電子工学科1組	電子工学科2組	創造工学専攻
学業優秀	長谷川 謙	赤塚 直		榎木 正博	名倉 利巳	田中 節子
(学術優秀)		内田 駿太				高橋 樹
皆勤	小幡 信太	小俣 栄太	金子 大二郎	大畑 友輝	金子 拓司	小林 亮
	佐藤 裕紀	高田 和輝		駒橋 明江	竹澤 友亨	
					土田 裕紀	
					若松 翔	
					渡邊 あすか	
精勤	池田 武夫	赤塚 直	青木 将	田中 暁	栗原 直人	
	野口 涼	内田 駿太	白石 陽介	松本 健太郎	富岡 伸夫	
	萩原 康弘	久保 俊裕	鈴木 崇仁		松島 克典	
	長谷川 謙	佐伯 康平				
	菱沼 祐太	白石 大宣				
		山根 啓太郎				
クラブ活動表彰	山下 恵介		嶋村 将			
勲学奨励荒川区長賞	池田 武夫	鈴木 秀磨	柳岡 拓渡	長谷部 尚志	金子 拓司	
日本航空宇宙学会学生賞	増田 祥一					
日本機械学会山賞	佐藤 裕紀		森林 裕哉			
産業教育振興中央会賞				島田 悟		大保 勇人
東京都産業教育振興会賞	古岩井 脩理	松山 研	石山 竜太	手嶋 祐太	松島 克典	藤木 雄大
						川畑 宏樹
日本設計工学会武藤英次賞			鈴木 崇仁			
実践教育訓練研究協会 優秀実践技術者表彰(学生の部)		高田和輝			山崎 秀行	

## 宇宙科学研究同好会学生 (写真は2008年時の学生)



2005年入部

2004年入部

## 5年間かけて開発した高専衛星 (2004年→2009年)



衛星サイズ 15cm角、立方体  
衛星重量 3.1kg  
世界最年少クラスの衛星開発

主衛星「いぶき」が分離時に撮影した写真 (まだ各相乗り衛星は分離されていない)



## 祝賀会

ホテル・ラングウッドにて



## 輝汐(きせき)の目的



## 航空高専→産業技術高専へ次号機計画は？

目的: 宇宙とレーザー通信(予定)  
衛星サイズ: 30cm立方体  
重さ20kg  
2013年打ち上げ目標(1年生が頑張っています)



## 東京都立航空工業高等専門学校 校歌

作詞 大保 修  
作曲 諸井 三郎

中庸の速さで、元気よく

た く ま し く き わ む る と こ ろ さん だ い の  
ほ ら に せ と う ち ら せ ぞ う い の  
い ま た く あ ら せ ず と こ ろ せい き の

こ う が く さん ぜん と お こ る き す べ し  
こ じ じ ぶ つ ら つ せ ら せ ら つ せ  
こ う ぼ し せ くと す す む は た せ よ

われらがあつらいはなすありこころ  
われらがしめいさちありこころ

あ あ わ れ ら と り つ こ う せ ん

白亜の学舎の窓  
起動の音はひびけり  
朗らかに鍛ふるどころ  
創意の技術澁刺と生る  
誇れわれらが伝統

## 都立航空高専閉校にあたって

校長 荒金善裕

1962（昭和37）年4月に誕生した東京都立航空工業高等専門学校（以下、本校という。）は、卒業生7,200余名という多くの優れた技術者を世に送り出してまいりましたが、平成22年3月をもって、その48年の歴史に幕を降ろすことになりました。

本校の設置の経緯を振り返ってみますと、昭和37年の高等専門学校制度発足と同時に開設され、設置学科は航空機体工学科1学級、航空原動機工学科1学級、機械工学科3学級で始まりました。さらに遡れば、前身校である東京府立航空工業学校の設置から数えて72年の歳月が流れており、前身校を含めた同窓生（大空会会員）の数は10,500余名にのぼります。そして本校は、東京府立航空工業学校開設以来、隅田川の彎曲部にあたる汐入の地に位置し、まさに汐入の町の変化とともに歩んできました。

本校の歴史を辿ると、昭和13年に設置された東京府立航空工業学校、ならびに昭和18年に開設された府立航空高等工業学校に端を発しています。これら両校の開設は、中等実業学校（5年）から専門学校（3年）にかけて、8年間の一貫した工業技術教育を施すことを目的としたものでした。しかし昭和20年、状況は一変します。敗戦にともない本校教育の根幹に係わる覚書が連合軍総司令部（G.H.Q）から日本政府に発せられました。覚書は、航空学に関する研究を禁止し、航空機および関連部品の購入・所有・運転を禁ずるものでした。戦争で校舎の中枢部を焼失し、第一義的な教育目標は禁止されるという致命的な打撃をこうむった両校は、「廃校」か「改編」という学校の存亡をかけた岐路に立たされます。その時、尽力されたのが、後に本校の初代校長になられる徳丸芳男先生をはじめとした教職員の方々に、不撓不屈の努力により学校を改編して、再出発する方向へと導いてくださいました。その後、昭和27年の対日講和条約の発効に伴い、先のG.H.Qの覚書は解除され、民間航空も再開されて、徐々にわが国の航空産業も息を吹き返します。そして昭和29年、航空技術者の育成が再開され、昭和30年4月には東京都立航空工業高等学校と改名し、名実ともに「航空」を冠した学校が復活することになります。

やがて、わが国は高度経済成長期を迎え、実践的中堅技術者の養成が急務となり昭和36年学校教育法の一部改正によって、「深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成する」ことを目的とし、中学校卒業者を対象に5年間の一貫教育を施す高等教育機関としての「高等専門学校制度」が創設されることとなります。社会の要請に応じて、いち早く新しい高専制度を受け入れ、昭和37年4月に、東京都立航空工業高等学校を母体として本校、すなわち「東京都立航空工業高等専門学校」が開設されることになりました。

その後、本校は順調に産業界に有為な人材を輩出し続けましたが、昭和52年春に突如として参事に見舞われます。山岳部で起きた悲しい出来事であります。亡くなられた方々のご冥福を心からお祈り申し上げます。

さらに、時代の変革に対応し、技術革新と情報化の進展にふさわしい教育・研究を展開するため、そして地域産業界や地域社会からの要請や期待に応えるために、文部省（文部科学省）より学科改組が許可され、平成元年4月より航空工学科1学級、機械工学科2学級、電子工学科2学級の3学科、5学級体制が発足します。併せて校舎も全面改築されることとなり、平成2年6月から工事が開始されました。新校舎は、当時としては大変近代的で「風格」と「ゆとり」と「独創性」を基本コンセプトとした延床面積約3万㎡、9階建ての都市型建物で平成4年度に竣工し、翌年度から使用を開始に現在いたっています。

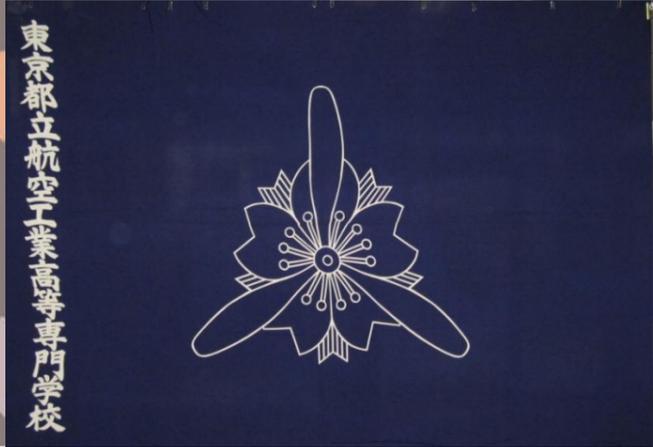
しかし近年、企業が求める人材は、高と経済成長期の「大量生産方式」を支えた中堅技術者から、付加価値の高い製品を作ることができる企画力や開発力を備えた、より専門性の高い実践的技術者へと移行してきました。さらに、少子化による15歳人口の減少や団塊世代の大量退職に伴う技術・技能の継承、後継者の確保・育成の必要性など、



東京都立航空工業高等専門学校閉校記念式典

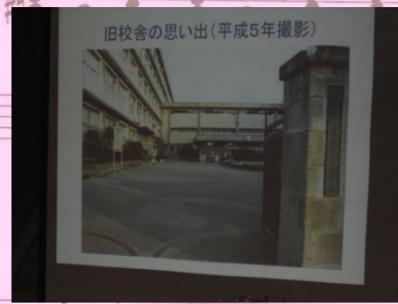


東京都立航空工業高等専門学校  
Tokyo Metropolitan College of Aeronautical Engineering





# 東京都立航空工業高等専門学校 校歌



## 准教授 深谷 直樹先生のお話

第1回ロボットコンテストには4年生のチームが出演しています。当時の校長先生の熱い思いの協力のもと、2年目には「棺桶魂」という名前のロボットを作りました。その後優勝、準優勝ならびに各賞をたくさんいただき今日に続いています。

## 准教授 石川 智浩先生のお話

人工衛星の説明を、パワーポイントを使って説明しました。次号の計画があります。それはレーザーポインターを使い、地上に向け光が見えるのではないかと、光のモールス信号を解析することによって高速通信ができるのではないかと。今は1年生から頑張っています。

①衛星のコンテストに応募して多くの宇宙ミッションアイデアを供出してきたこと。

②地域と連携して日本中から世界中に対して15歳からでも人工衛星が作れるということ。

この2点が航空高専の仕事だったのではないかと私は思っております。



## 都立航空高専 宇宙科学研究同好会 航空高専衛星(輝汐)



女の子たち



アルバム写真撮影



校歌指揮



音楽部



# ■ 謝恩会

## 東京都立航空工業高等専門学校祝賀会



ラングウッドルーム  
第44回東京都立航空工業  
卒業祝賀パーティー  
高等専門学校  
様御席



高等専門学校を取り巻く環境は大きく変化してきました。

こうした産業界のニーズや社会状況の変化に対応するため、都立の二つの高等専門学校、すなわち本校と都立工業高等専門学校を再編統合し、平成 18 年 4 月、新たに東京都立産業技術高等専門学校を開設するとともに、本科 5 年の上に、より高度な開発型実践的技術者教育を行う専攻科（2 年制）を設けました。また、平成 20 年 4 月、本校は東京教育委員会から公立大学法人首都大学東京に移管され、同法人の下で、首都大学東京および産業技術大学院大学との一体的な経営が行われる環境になりました。

本校は開校以来 48 年の歴史の中で、その時々様々な環境変化に対応しながら、また自らを時代に適合させながら、技術立国日本の声価を高めるために大きな貢献をしてまいりました。そしてこれからも大都市東京の唯一の公立高専という特色を生かし、「首都東京のものづくり教育の中核」としてその期待に応えてまいります。さらには、わが国のものづくり教育の改革のさきがけとなり、21 世紀のものづくりを代表する学校を目指してまいりたいと思います。

閉校によりまして東京都立航空工業高等専門学校はその役目を終えますけれども、そこで培われた**勉学の精神**、それと**伝統**は東京都立産業技術高等専門学校に引き継がれまして、日本のものづくりを将来にわたって支え続けてまいりたいと思います。

最後になりましたけれども、本校の卒業生の皆様、本校をこれまで支えてこられた歴代の校長をはじめ、教職員の皆様、本校を応援して下さいの地元の皆様方に心から感謝を申し上げ閉校の挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございました。

### 式次第

平成 22 年 3 月 28 日(日)午後 2 時 30 分 開会

(司会) 学生主事 杉江 道男

副校長 田原 正夫

開会の辞

#### 第 1 部

校長式辞

校長 荒金 善裕

理事長挨拶

公立大学法人首都大学東京 理事長 高橋 宏

東京都教育委員会挨拶

東京都教育庁都立学校教育部長 森口 純

経過報告

教務主事 奥平 鎮正

来賓紹介・電報披露

管理課長 西沢 拓

記念メッセージ

『今、航空高専を振り返る』

元学生主事 須藤 亘啓

『航空高専から飛び立って思うこと』

卒業生 石松 純

—休憩 20 分—

#### 第 2 部

ロボット研究会発表

准教授 深谷 直樹

超小型衛星プロジェクトチーム発表

准教授 石川 智浩

音楽部演奏 校歌斉唱

音楽部

閉会の辞

副校長 田原 正夫